

努力賞 (子どもの部)

「百万回生きたねこはハッピーエンドだった」

荒川区立尾久宮前小学校四年

大久保 日向

「死ぬってどういうことだろう？」

私がこの本に初めて出会ったのは五才の時です。今、私は十才になりました。今年の夏休みに『西の魔女が死んだ』という映画を観ました。このことがきっかけで「死んだらどうなるか」をテーマに、調べる学習を行いました。調べていく中で「自由に楽しく生きること」がとても大切だと分かりました。そこで、あらためてこの『百万回生きたねこ』を手にとってみました。

―ねこが何度も死んでは生き返る―だれのこと
も好きではなくて、死ぬこともこわくなかったね
こは、何度も何度も生まれ変わってしまいます。ね
こはいつも、だれかのねこでした。だれもがねこの
ことをかわいがっていました。しかし、初めてねこ
が自由になったとき、自分のことが大好きになり、
さらに恋をして、家族ができるねこは変わって
：

五才の私は、この本を母に読んでもらいました。
その時の私は、ねこが死んでしまったという事実
が、とても悲しかったです。

でも、今読ぶと「ねこは大好きな白ねこといっし
よにいたいから、生き返らなかつたんだ」と思いま
す。そう考えると、この話はハッピーエンドと言え
るのではないのでしょうか。

私の母は、「ねこが人生を楽しんだからもうくりかえさないんじゃないかな」と言っていました。きっと読む人によって、この話の感じ方は違うのではないか。そう思うと、たくさんの人に読んでどう思うのか聞いてみたいと思いました。柳田先生はこのお話をどうとらえていますか。

最後に、「なぜもう生き返らないのか」とねこにも聞いてみたいです。